

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba
第2号 2016年12月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を、基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。



複数の学生団体が共演した後夜祭オープニングセレモニー

雙峰祭を終えて

11月4日(金)から11月6日(日)にかけて、第42回筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催されました。前夜祭から本祭まで3日間全て晴れ、天気も雙峰祭を後押しする幸運の中、大成功を収めることができました。開催期間が全て晴れるのは実に11年ぶりで、今年は奇跡の年といってもよいのではないのでしょうか。

当日は、例年に比べて非常に多くの来場者の方々に訪れていただき、笑顔の溢れる雙峰祭を見ることができました。後夜祭は東京03さんとブラットピークさんにお越しいただき、UNITEDステージ前に観客が隙間なく集まる光景が広がりました。多くの方に楽しんでいただける学園祭を作り上げられたのは皆様のご支援のおかげです。ご来場いただいた方々をはじめ、ご協力いただいた大学職員や企画者の方々に心より御礼申し上げます。

(寄稿/第42回筑波大学学園祭実行委員会委員長 矢作祐士・応理2年)

—内容—

キャンパスニュース、就職活動を終えて	1頁
学生相談室から、桐の葉日記	
学類・専門学群紹介、就職ガイダンス等のすすめ	2頁
Editors'2016	
特集：日本生物学オリンピック2016本選	3頁
芸サ連、文サ連、全代会、体育会活動紹介、	3、4頁
特集：雙峰祭2016	

援助金ありがとうございます

第42回筑波大学学園祭「雙峰祭」の開催に際し、学生が主催する諸行事や課外活動等に支援していただいている筑波大学紫峰会基金より、援助金100万円を支援していただきました。筑波大学の魅力を体感してもらうために、雙峰祭の運営資金としてこの援助金を有効に使わせていただきました。

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

秋ABモジュール期末試験	12月16、22～28日
冬季休業	12月29日～1月9日
同(東京キャンパス・夜間)	12月25日～1月5日
秋ABCモジュール期末試験	2月9～15日
同(東京キャンパス・夜間)	1月28、31日、2月3、8、9日
期末試験予備日	2月16日
同(東京キャンパス・夜間)	2月4、7、10日
春季休業	2月17日～
同(東京キャンパス・夜間)	2月11日～
卒業式・大学院学位記授与式	3月24日
同(東京キャンパス・夜間)	3月25日

キャンパスニュース



学長から学位記を受け取る卒業生

平成28年度卒業式・学位記授与式(9月期)

9月23日に学生会館ホールで、平成28年度卒業式・学位記授与式(9月期)が行われた。今回の式には6名の学群学生と、91名の大学院学生が卒業生として出席した。各学群や研究科を代表する学生が1人ずつ登壇し、学位記を受け取った。

永田恭介学長は、英語で卒業生への言葉を贈られた。筑波大学で学んだことを活かし、これからは世界を牽引していく存在として広く活躍してほしい、という旨のメッセージが込められていた。

色とりどりの袴や外国の民族衣装を着た卒業生たちが集い、会場の落ち着いた雰囲気の中にもどこか華々しい印象を受けた。

(取材/文サ連広報局長 村上優衣・人文3年)



応援部 WINS による新入生への激励

平成28年度秋学期入学式

9月30日に学生会館ホールで、平成28年度秋学期入学式が行われた。今回の式では、学群学生79名と大学院学生168名が新入生として迎え入れられた。参加者には留学生が多かったため、永田恭介学長は英語でスピーチをした。学長の言葉からは、新入生たちの今後の活躍を期待し、彼らを温かく歓迎する気持ちが伝わった。

式の後には、応援部WINSが激励のためのパフォーマンスをした。部員は英語での説明を交えながら、筑波大学伝統の応援歌などを披露していた。力強い応援に背中を押され、新入生たちは筑波大学での学業の道を歩み出した。

(取材/文サ連広報局長 村上優衣・人文3年)



盆LIVE 第III部の様子

盆LIVE2016

9月17日、つくば市研究学園駅前「盆LIVE2016」が行われた。盆LIVEは筑波大学生が中心となって企画し、2015年から始まったお祭りである。つくば市に住む地元の人や県外出身者、海外出身者など、様々な人たちが集まって楽しめる場を作りたいという思いから、このお祭りは生まれた。

今回の盆LIVEは吉瀬三日月囃子保存会の演奏から始まり、その後は和楽器を中心とした生演奏による盆踊り、筑波大学ときめき太鼓塾による和太鼓演奏などが行われた。そして、最後にはバンドの生演奏による現代ポップスの盆踊りが繰り広げられ、盛況の中、盆LIVE2016は幕を下ろした。

(取材/広報部会 清野晃平・生物3年)



アカベラサークル Doo-Wop のパフォーマンス

第3回 食と酒東北祭り

10月15日～16日、つくばセンター広場において「第3回 食と酒東北祭り」が行われた。この祭りは東日本震災の復興支援を目的として東北自慢の「食」と「酒」を楽しむことができる祭りであり、筑波大生によって企画・運営されている。

ステージでは筑波大学所属の課外活動団体がパフォーマンスを行っており、中でもアカベラサークルDoo-Wopによるライブは多くの観客を魅了していた。屋台には東北地方の名酒や、一閑産の鶏ハラミを、地元の味噌ダレで焼き上げた「いちのせきハラミ焼」、日本三大まんじゅうの一つ「柏屋薄皮饅頭」など東北の魅力を感じる食べ物や飲み物が並んでいた。

子供向けの企画も多数あり、家族連れの来場者も多くみられた。(取材/広報部会 米山和文・物理4年)



人文・文化学群人文学類4年
石田七海

この場をお借りして自らの就職活動について振り返らせていただきます。就職活動は今までの自分を振り返る、自己分析を行う良い機会であったと思います。

実際に就職活動を始めると、皆さんが知っている企業は全体のごく一部であることに気が付くと思います。私自身も当初は膨大な数の企業の存在に圧倒されました。そこで、就活生向けのウェブサイトや大学会館で行われている学内合同企業説明会に参加することで興味のある企業を絞っていきましました。その後、個別の企業説明会に行ったりOB訪問をしたりすると、ネットの情報だけではなかなか伝わらない社風がわかり、自分が働く姿を具体的に想像することができました。

興味関心、勤務体系といった様々な尺度で選考に進む企業を絞っていくのですが、その際出来る限り広範な視野を持つことが大切であると思います。私は大学生活の中で教職の講義や学習支援のアルバイトを経験したことから教育に携わりたい、と考えるようになりました。しかし、一口に民間の教育業界といっても、塾・予備校の講師や運営スタッフ、教材制作など業務のカテゴリーは多岐にわたります。また、幼児教育から社会人教育まで対象も幅広くあります。そのため、自分はどういう切り口から教育に携わりたいのかをしっかりと考える必要がありました。どの業界を志望する人にも言えることですが、就職活動において「〇〇が好きだから、〇〇に関わる仕事に就きたい」という人は、「〇〇のどんなところに興味があるのか」をより深く考察しなければなりません。そこで、就職活動を自分と向き合う時間として、前向きに捉えると良いと思います。普

段の生活で自分について考える機会はなかなか無いものです。自分の好きなこと、やりたいことがある人はどうして好きなのか、どうしてやりたいのかをじっくり考えてみてください。また、自分の可能性を拓くためにも、是非大学生活での学業や部活動、アルバイトなどに全力で打ち込んでください。

エントリーシートや面接では自分の考えを外部に発信することが求められるのですが、それには自分がこれまでどのようなことをし、そこから何を学んだかということ丁寧振り返ることが重要です。しかし自分一人では行き詰まる場合もあります。そのときは、親しい友人や先輩、家族から客観的な意見をもらいましょう。私はエントリーシートを友人と先輩に添削してもらいました。皆さんもサークルや研究室の先輩と良好な関係を築き、可能であれば指導をしてもらおうと心強いと思います。また、大学の就職課が開催しているエントリーシートや面接対策のセミナーへの参加も非常に有意義です。

就職活動の時期が年々変動しており、皆さんの中には不安を感じている方も少なくないと思います。もちろん情報を敏感に察知することは大切ですが、後悔しない就職活動にするためにも、周囲の動きに翻弄されずに自分に自信をもって臨んでください。最後になりましたが、これから就職活動に挑む皆さんを応援しています。



社会・国際学群社会学類4年
熊木徳子

今年は去年と続けて2年連続で採用スケジュールが変更され、どう動かし模索するような形で就職活動を進めていました。来年は今年と同じスケジュールで進むということで、私の体験記が少しでも

お役に立てれば幸いです。

今回の採用スケジュールは、3月に情報解禁、6月に選考開始でした。つまり、情報が解禁されてから面接まで3ヶ月しかありません。これは、就職活動が以前と比較して短期集中型になっていることを意味しています。その上で重要になってくるのが、その事前準備です。3月から自己分析や企業研究を始めるのは到底間に合いません。エントリーシートの募集の締め切りは4月が多く、3月いっぱい締め切る企業もあります。また業界によっては1月からエントリーを始めるところもあり、受けようと思ったら1次受付が終わっていたということも考えられます。自分が希望する業界がだいたいどの時期から動き始めるのか事前に調査し、そこから逆算して自己分析やエントリーシートの準備等を進める必要があります。また、まだ自分が希望する業界が見つからないという方は、様々な業界のインターシップを受け、自分に合う業界を見つけると良いでしょう。インターシップは1 dayや5 daysなど様々なので、自分の予定と合わせて受けると良いと思います。

私は3年生の夏から10個ほど様々な業界のインターシップに参加しました。インターシップを通して会社の業務内容、そして雰囲気や学ぶことで自分に合うかどうかを判断し、そして自分が仕事に何を求めるのかを探りました。私はインターシップを通して、「自分が好きなことに携わりながら、誰かを楽し

ませる仕事がしたい」と考えるようになり、教育やエンターテインメント業界を中心に就職活動を進めました。

実際に体験しないと自分に合う合わないは分かりません。社員の方の話聞きながら自分が将来何をしたいのか明確にしましょう。

そして、もう一つ。よく就職活動中だから遊ぶのを控えるという人がいますが、私はその必要はないかと思っています。正直やはり就職活動中はストレスが溜まります。何かエントリーシートを書いたり、今までお会いしたことがないような社会人の方と話したり、不採用通知が届いたり、無事就職活動が終わられるか不安になることもあります。そんな時は、溜め込まずストレスを分散しましょう。一番のおすすめは、友人とご飯を食べに行くことです。

おいしいご飯を食べながら就職活動について語り合うことで、頭の中が整理されたり、心の中にあった不安が解消されることもあります。適度に息抜きをして、ベストコンディションで就職活動に臨んでください。

いろいろ書きましたが、重要なのは自分が納得できる会社に就職できたかどうかです。それが会社のブランドなのか、給料なのか、社風なのかは人それぞれですが、内定は「終わり」ではなく、「はじまり」です。卒業後の生活が、その会社ではじまることになります。そのうえで、自分にとって何が重要なのかを考えながら就職活動を進めてください。

最後になりますが、皆さまの就職活動が良いものとなりますよう、心から応援申し上げます。頑張ってください！

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「うどんに学ぶ異文化体験」 学生相談室 田中崇恵

この9月より学生相談室でカウンセラーとして勤務しております田中と申します。現在、私は筑波大学で様々な異文化体験をしている真っ最中です。今年度入学されてきた新入生の方も少なくとも1年間はたくさんの異文化体験をしていくのではないのでしょうか。私の異文化体験といえば、「うどん」です。西の文化で育ってきた私にとって関東で初めてうどんを食べた時には頭を「がーん！」と殴られたような衝撃がありました（関東と関西では出汁が違います）。うどんを食べるという日常のちょっとしたことにも、今までの文化がいかに自分にしみついているのかを教えられ、そして新しい土地に息づいている文化との出会いにこんなにもインパクトがあるものなのかと思ったことを今でも覚えています。

異文化体験とは面白いもので、新しい文化や環境に人が置かれると、様々な反応が表れてきます。もっと体験してみよう！面

白いことを探してみよう！という方向に広がる人もいれば、大きなショックを受けて「前の方がよかったな」と気分が落ち込んでしまう人など様々です。決して前者がよくて、後者がよくない反応とも言えず、それは単にタイプの問題だろうと思います。後者のようなタイプの方は、その時の適応が良くないかもしれませんが、今まで気づかなかった郷里のよさに気が付いてこれまで以上に故郷の文化を大切にしようになったり、新しい文化の先で生き抜いていくだけの新たな方法を身につけてより大きく成長したりしていく可能性を持っています。

学生相談室にもこれまで体験したことのない出来事に遭遇したときに、気持ちが落ち込んでしまったり、なにかも上手くいかないような気分になったりする学生さんが訪れます。しかし、一見辛いような体験にも自分の世界を広げるチャンスが隠されています。悩みながらももう一回り成長していく学生さんの姿を見るととても頼もしく思います。

ご家族でもお子さんが大学で味わった異文化体験について語り合ってみてはいかがでしょうか。

桐の葉日記

秋は深まり、日もだんだんと短くなってきました。6限目の授業を終えて外に出ると、辺りがすっかり暗くなっていることに少し驚かされます。この「紫峰の風第2号」が皆様のもとへ届くころには、いよいよ冬が訪れていることでしょう。

今回の紫峰の風を作成するにあたって、私はいくつかの学内行事やイベントの取材を担当しました。9月期の卒業式や入学式では、多くの留学生の前で英語のスピーチをされる学長の姿を見て、筑波大学の国際的な一面を知ることができました。食と酒東北祭りでは、イベントを成功させようと忙しく駆け回る運営委員、ステージパフォーマンスで会場を盛り上げる様々なサークルなど、一生懸命な学生たちの姿がとて輝いて映りました。これらのことは、休日家で過ごしては決して知り得なかったでしょう。広報誌の編集に携わったからこそ、大学や学生の新たな魅力を発見できたのだと思います。読者の皆様にも紫峰の風を通して、その魅力をお伝えできれば幸いです。

年末が近づき、広報会議も代替わりの時期です。任期を終えてほっとする反面、なんだか寂しいような気もします。次号からは新しいメンバーが編集を担当します。きっとより良い広報

誌を作るために努めてくれると思いますので、これからもどうぞ紫峰の風をよろしく願います。

(文責/文サ連広報局長 村上優衣・人文3年)

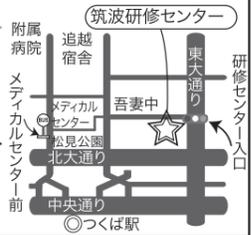
宿泊施設・館内食堂のご案内

筑波研修センター ・1泊3700円より(食事別)
・シングル145室・ツイン5室・和室5室
筑波大学同窓会「茗溪会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時に申し出下さい。

館内食堂 こうせい ・朝食500円均一
・定食750円より
バイキング形式、懇親会、パーティも承ります。内容、料金など気軽にご相談ください。(座席80名・立食可)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886
E-mail center@meikei.or.jp
URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>

紫峰会基金協力者と
旧紫峰会会員の方は
1泊200円割引します



学類・専門学群紹介

人間学群 障害科学類

学類紹介

障害科学類は、すべての障害とそれを取り巻く環境を対象に、主に心理学・教育学・福祉学の観点から専門知識や実践的な支援の方法を総合的に習得し、すべての人が共に生きる社会に貢献できる人材を育成しています。

障害科学類の学生より

私が筑波大学の障害科学類を選んだのは、特別支援教育学、心理学、医学、生理学、社会福祉学、さらには脳科学や社会学などの様々な角度から障害について学ぶことができることに強く魅力を感じたからです。

障害科学類の良いところとして、各領域の最先端の研究を行っている先生方から障害に関する様々な知識を教えていただくことができる点と、教えていただいたことが生活に直結している部分が多く、生活の中で自分自身の知識も深まり、新たな気づきが生まれる点が挙げられます。入学当初は知的障害児の教育に興味があったのですが、指導法だけでなく、歴史的に知的障害者がどのように受け入れられてきたのかに関して学んだり、医学の面から生理病理に関して学んだりすることができるため、教育分野以外についても興味が広がりました。また授業を通して視覚障害や聴覚障害などの他の障害に対しても興味が出てきて、自分自身の視野も広がりました。

他にも1学年35名程のため、他の学類に比べてとても少人数であることも良い点として挙げられます。学類全体で仲が良く、とても温かい良い雰囲気の中で4年間の大学生活を過ごすことができます。この学類でできた友達は一生の宝物だと思っています。

将来は、障害科学類で学んだことを生かし、障害を有している幼児期の子供達に対する教育や、その子供達にかかわる周囲の人々に対するサポートや理解啓発に携わりたいと考えています。

そのためにも、残りの大学生活で多くのことを身に付け、自分自身の力や専門性を高めていきたいと思っています。

(寄稿/和知真由・障害3年)



講義の様子

重複障害の理解と支援

「障害」と聞くと何を思い浮かべるでしょう。「視覚障害」「聴覚障害」「知的障害」などでしょうか。障害には、教育の視点から考えるとそのほかに「運動障害」と「病弱」の大きく分けて5つの領域に分けられます。それぞれの障害は、ひとつの障害を単独で持っている場合もあれば、違う領域の障害を併せ持っている場合もあります。この授業では、そういった2つ以上の障害を合わせ持った子どもたちの理解と指導について学ぶ授業です。特別支援学校での指導の様子をDVDで見ながら、それぞれの障害がどう絡み合っているのか、また2つ以上の障害を併せ持つことで新たにどんな困難が生まれるのかを考えていきます。

(寄稿/村田紗也佳・障害2年)

情報学群 情報メディア創成学類

学類紹介

情報メディア創成学類は、ネットワーク情報社会のゆたかな未来を拓くフロントランナーをめざす工学・技術系の学類です。インターネットの爆発的な普及によりもたらされた変化の時代に活躍できる技術者を養成することを目的としています。

情報メディア創成学類の学生より

情報メディア創成学類は授業で情報技術の基礎や広い教養をしっかり学んだうえで、学生個人の取り組みが求められる学類です。新たなシステムやコンテンツを作るために必要な知識や発想力、企画力などは授業で触れる部分もありますが、自分で学び培う必要があるでしょう。

情報メディア創成学類の授業の中に情報メディア特別演習という授業があります。アドバイザー教員と呼ばれる教員から、アドバイスを受けながら、通年で自分のやりたい課題を実践的に勉強する授業です。そこでは、Webサービスやソフトウェアプログラムの開発、オリジナルゲームの制作など、実習を通して好きに作品を作ることができます。基本的に個人で設定した課題を進め、定期的に行われるアドバイザー教員との面談の中で、課題の進捗や分からないところがないかなどの確認を行っています。このよう

に情報メディア創成学類は授業の中でも実際のコンテンツ制作に触れることができるなど、自分から学びに行く門戸がとても広い学類だと思います。自分らしさを発揮したユニークな成果、そのために少しでも努力を重ねたいと思いました。

(寄稿/加藤靖之・創成2年)

プログラミング実習II

この授業では、C言語を使ったプログラミングを通じてプログラム開発の基礎を学習します。講義形式の「プログラミングII」と連携しながら主に演習により実際にコードを書いて技術を身に付けることを目指します。情報メディア創成学類では第一学年でプログラミングに関する講義をいくつか受講することになりますが、ここではそれらの学習内容を足場により高度な内容を学習することができます。授業では、毎回の課題を行うことで基本事項を習得し、最終課題ではそれらを応用し自分の作品を制作します。特に最終課題は第一学年で学んだプログラミング技法を総括する場でもあり、各学生はときには苦戦しながらも個性的な作品を制作していきます。濃い授業内容になっていますが、最後には自分の成長を実感することができます。

(寄稿/長岡篤史・創成2年)

医学群 医療科学類

学群紹介

医療科学類は、医療に対する社会の要請に責任感と使命感を持って対応するため、医科学領域の研究・教育を推進し、また診断や治療に必要な新たな技術開発とその実践に関わって高度専門医療を担う人材を育成しています。

医療科学類の学生より

私がこの学類を志望した理由は高校時代の体験によるものです。高校時代に運良く筑波大学の研究室体験に参加し、その際、筑波大学の設備環境に感動しました。そして、2年次に研究中心の課程に進むことのできるこの学類を志望しました。

医療科学類では、1～2年次のうちは医療系や検査の基礎科目と国語や情報といった一般教養を学びます。そして3年次には医療科学専攻と、国際医療科学専攻の2つのコースを選択します。前者では臨床検査技師になるための技術を、後者では研究についてそれぞれ知識と技術を広めます。この学類の特徴はクラス内での関わりが深いことではないかと思います。他学類の人から「大変そう」と言われるほど勉強は大変です。そんな中、各学年40人前後1クラスのみで当学類では、試験や実習の度に級友たちと団結して乗り越えていきます。そのため絆が深まります。また他の学類と比べて実験や実習なども多く、実技が得意な人は楽しんで取り組めるのではないのでしょうか。しかし、人の命を扱う資格に関わるので進級については少し厳しく、気は抜けません。

さて、最後に自分のこととなりますが、そろそろ進路選択の時期です。夢に向かって日々精進していきたいと思っています。

(寄稿/井上能考・医療2年)

理工学群 化学類

学類紹介

化学類は化学物質や化学現象の分子・原子・電子レベルでの理解、新しい機能を持つ新物質の創製、化学現象の普遍法則追求などを目的とし、そのような基礎研究を環境汚染やエネルギー問題の解決へとつなげていき、国際的に活躍できる研究者となるための指導・教育に努力しています。

化学類の学生より

化学類は、筑波大学の中では比較的人数の少ない学類です。筑波大学ではクラス制度によって、ひとつの学類をさらにいくつかのクラスに分けられています。化学類も二つのクラスに分かれています。人数が少ないので授業などで別々になることはほとんどありません。なので学類の全員と関わりを持つことができます。また、入学直後のオリエンテーションや化学類に関する委員会の中のいくつかは、複数の学類が合同で運営を行っているため、学類内だけでなく、同じ理系の道を選んだ人と交流を深めることができます。

筑波大学には多くの国からの留学生がおり、日本の学生と共に勉学に励んでいます。他国の生徒と関わることはとても良い刺激になります。図書館設備の良いところも筑波大学への魅力の一つです。文献や参考書がたくさんあることや、開館時間が平日24:00まで開館していることが、多くの学生に勉強を支えていると思います。また、筑波大学は総合大学であり他学類の興味のある講義を受講できます。専門外の興味のある学問を学べることも筑波大学の特徴に挙げられると思います。

私は将来、企業の研究職に就きたいと考えています。そのためには化学の専門的な知識はもちろん、様々な角度から物事を見る力も必要となってくると思います。留学生とかかわりを持つことからいろいろな視点を得たり、図書館設備が充実していることを



顕微鏡を使った実験

人体構造学実習

皆さんは自分の体を構成している器官や細胞がどんな姿をしているのか、どんな働きをしているのか、考えたことはあるでしょうか。同じ器官、同じ細胞でもよく見てみると、それらは私たちに様々な姿を見せてくれます。

人体構造学実習では、顕微鏡を用いた組織標本の観察、スケッチを通し人体を構成する器官や組織への理解を深めることができます。人体における各器官の働きの違いにより、細胞の種類、特徴も異なります。

実習では座学で学んだことの理解だけでなく、実際に行うことで初めてわかることもあります。今後始まっていく様々な実習にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

(寄稿/齊藤美月・医療1年)

上手に利用してこれからも勉学に励んでいきたいと思っています。

(寄稿/中島朗久・化学2年)



化学基礎セミナー発表の様子

化学基礎セミナー

化学基礎セミナーは化学類の1年次に行われる授業です。この授業は化学に対する探究心を養うことを目的としており、学生の要望が取り入れられながら学習を進められています。今年は、個人・グループによるプレゼンテーションと研究室見学が行われます。写真は個人によるプレゼンテーションの様子です。テーマは「みんなの知らない化学」ということで、学生一人一人が高校の授業では学ばなかった、化学に関連したものや、クラスの他の人は知らないと思われる化学に関するものについて発表をしています。また、研究室見学では化学の中でも自分の興味のある研究を見つけることができたり、自分の進路について考えたりするとても良い機会になります。このように普通の授業とは違った化学へのアプローチができます。

(寄稿/中島朗久・化学2年)

平成 30 年卒業、修了予定者対象就職ガイダンス等のすめ

筑波大学では、昨年10月1日に従来のダイバーシティ推進室、障害学生支援室、キャリア支援室を統合し、「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (DAC センター)」を設置し、多様な学生のキャリア・就職支援の総合的な支援体制を整えました。これにより、よりきめ細やかな支援を実現していきます。

いよいよ平成30年卒業、修了予定者の就職活動が始まります。昨年に引き続き3月広報活動、6月採用活動が解禁されていますが、各企業の動向も多様化しておりこの採用の流れによらないケースが報告されています。また、採用基準についても社会では売り手市場といわれておりますが、相変わらずの厳選採用はいっそう顕著となっております。

キャリアサポート部門/就職課では、このような就職活動の変化に対応できるよう一連の流れに合わせたわかりやすい就職ガイダンス等を次の日程のとおり用意しています。ぜひ、お役に活用していただけるようご案内いたしますようお願いいたします。

平成 28 年度 就職ガイダンス日程表

平成30年3月卒業・修了予定の学生を対象として、下記の通りガイダンス等を開催します。日時、内容等に変更が生じる場合がありますので「キャリアサポート部門/学生部就職課 HP <http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>」でご確認ください。

●就職支援プログラム (企業・団体)

◆就職ガイダンス					
日時	会場	実施内容	日時	会場	実施内容
12.7 (水) 15:15～18:00	1H棟 101	就職活動準備講座④ エントリーシート対策	29.1.18 (水) 10:10～16:30	共同利用棟 A	// ⑨ グループディスカッション対策
12.14 (水) 15:15～16:30	1H棟 101	// ⑤ 就活のためのマナー講座	29.1.25 (水) 10:10～16:30	共同利用棟 A	// ⑩ 面接対策
12.14 (水) 16:45～18:00	1H棟 101	// ⑥ 就活のためのメイク講座	29.1月～3月 1回1.5時間 各週2～3回程度	就職課会議室	フォローアップ① エントリーシート対策
12.21 (水) 15:15～18:00	1H棟 101	// ⑦ 一般常識テスト受験会			// ② グループディスカッション対策
29.1.11 (水) 10:10～16:30	共同利用棟 A	// ⑧ エントリーシート対策			// ③ 面接対策

◆学内企業説明会		
日時	会場	実施内容
29.3.1 (水)～3.17 (金) 12:30～17:15 5ターム制	大会館	各企業の人事担当者やOB・OGが来学し、企業概要の説明と学内企業説明会と共に質問等に応じてくれます。参加企業についてはHP及び掲示板でお知らせします。(1日50社程度、合計約700社)

●就職支援プログラム (教員)

◆教員ガイダンス				
日時	会場	実施内容	講師	
12.14 (水) 15:15～16:30	就職課会議室	埼玉県公立学校教員採用試験説明会	埼玉県教育委員会	
12.21 (水) 15:15～16:30	就職課会議室	神奈川県公立学校教員採用試験説明会	神奈川県教育委員会	
29.1.16 (月) 13:45～17:15	1C210 他	公立学校教員採用試験ガイダンス	茗茶会 ※申込制	

◆教員採用試験対策講座				
日時	会場	実施内容	講師	
12.1 (木)、12.8 (木)、12.15 (木)、12.22 (木)、29.1.12 (木)、29.1.26 (木) ① 13:45～15:00 ② 15:15～16:30 ※①、②同一内容	1E303	公立学校教員採用試験対策講座	高橋基之先生	

◆教員採用試験模擬試験 ※申込制		
日時	会場	実施内容
29.1.10 (火) 13:10～17:50	1C406	【全国型】
29.2.21 (火) 13:10～17:50	共同利用棟 A101	【全国型】
29.3.14 (火) 13:10～15:50	共同利用棟 A101	【茨城県型】【神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市型】【埼玉県・さいたま市型】【千葉県・千葉市型】
29.3.16 (木) 13:10～16:00	共同利用棟 A101	【東京都型】
29.4.25 (火) 13:10～17:50	場所未定	【全国型】

●就職支援プログラム (公務員)

◆公務員ガイダンス				
日時	会場	実施内容	講師	
12.7 (水) 13:45～15:00	就職課会議室	自衛隊業務説明会	自衛隊	
12.7 (水) 15:15～16:30	1E202	国立国会図書館業務説明会	国立国会図書館	
12.14 (水) 13:45～15:00	1E202	国税専門官業務説明会	国税局	
29.1.18 (水) 13:45～15:00	就職課会議室	総務省業務説明会	総務省	
29.1.18 (水) 15:15～16:30	就職課会議室	名古屋市業務説明会	名古屋役所	

◆公務員採用模擬試験模試 ※未定 (決まり次第、就職課HP及び学内掲示板にてお知らせします。)

●キャリア形成支援プログラム

◆キャリアインタビュー OB/OG 訪問 in つくば～自分を活かせるしごとを見つけよう～		
日時	会場	実施内容
29.1.28 (土) 13:00～17:30	1H101・第一エリア食堂	就職活動で有効なOB・OG訪問が大学内でできます。本学卒業生や東京地区の社会人大学生が就職活動での質問に応じたり、情報の提供をしたりしてくれます。 ※定員120名、先着順で事前登録制となります。

キャリア・就職相談窓口のご案内

キャリアサポート部門/就職課では、キャリア・就職に関する相談を年間を通して受け付けており、経験豊富なキャリアカウンセラー等の有資格者が個別にお話を伺い、情報提供やアドバイスを行います。

就職活動(企業・公務員・教員)以外にも、大学入学後の低学年からいつでもだれでもキャリア(進路)に関する相談ができる体制が整っております。相談希望の方は、就職課窓口もしくはお電話にて空き状況を確認の上、お気軽にご予約ください。

○相談日時 月曜日～金曜日(年末・年始・お盆休み・祝日は除く)

①9:40～ ②11:00～ ③13:30～ ④14:45～ ⑤16:00～

※1回の相談時間はおおむね40～60分以内になります。

※上記時間が合わない場合には、個別に対応いたしますのでご相談ください。

○相談の申し込み・お問い合わせは・・・

学生部就職課(第一エリア1D スチューデントプラザ内)

予約電話:029-853-8444

(受付時間 平日8:30～17:15)

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門 / 学生部就職課

<http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>

Editors' 2016

1年間、三系と全代会から集まった学生たちが、学内をはじめ各地を走り回ってたくさんのお話を取材し、皆様に提供してくれました。その1年間の感想を書いてもらいました。



左から藤本、秋本、村上、塚田、久田、吉川、渡辺

▶新たに「紫峰の風」へと変わる年に、誌名の決定から内容の方針決定まで一緒に考えることができ、とても光栄に思います。ただ未だ少ない資金で活動している団体も多くあるのが現状です。筑波大学の課外活動がより一層活発となるよう、今後この広報誌が我々の活動を生き生きと伝え、よりよく機能していくことを願っております。

(体育会広報局長 久田陽介・体育3年)

▶入学した時にはまさか自分が大学の広報の仕事を担当することになるとは夢にも思いませんでした。最初の頃は広報関係の仕事など今まで一度もしたことがなく、自分にこの『紫峰の風』のようなオシャレで素晴らしいものが作れるのだろうかかと不安で一杯でした。しかし紫峰会業務推進室の皆様及び他の広報局長の

方々の支えがあり、こんな私でも大学への貢献ができ大変嬉しかったです。

1年間という短い間でしたがとても貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

(芸サ連広報局長 秋本祐一郎・人文2年)

▶私は他のメンバーより遅れて学生広報会議に参加しました。そのため仕事もなかなか覚えられず、迷惑をかけてばかりでした。そんな中、周りの皆様から多くの親切なご指導をいただけたこと、大変感謝しております。広報誌の編集に携わり、色々勉強になることも多かったです。この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(文サ連広報局長 村上優衣・人文3年)

▶紫峰の風の作成に携わることで、私たちが普段部活で何一つ不自由なく活動できるのは多くの方の協力があってこそということに気がつくことが出来ました。私自身は作成にそれほど多く関わってはいませんが、いやな顔1つせずに多くの仕事をこなしていた他の広報局長や部会メンバーには頭が上がりません。良い仲間と出会えたことに感謝したいと思います。

(体育会医学支部広報局長 塚田亮羽・医学2年)

▶紫峰の風という新しい会報の誕生に携わることができて、大変光栄です。編集作業では、他のメンバーに迷惑をかけてばかりでしたが、優秀な方々でしたのでとても頼りになりました。様々なことを勉強させていただき、とても貴重な体験となりました。これからもこの会報が末永く続いてゆくことを願っております。

(文サ連広報局長 藤本大輝・知識2年)

▶「紫峰の風」編集に携わって、私たちの学生生活が多くの人によって支えられているということを実感しました。また、大学やつくばの魅力に改めて気づくことができました。その魅力を限られた字数の中で伝えるというやりがいのある仕事に少しでも関わることができて嬉しく思っています。一年間、広報を通して色々な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

(芸サ連広報局長 渡辺千春・日日3年)

寄附にご協力をお願いします

「紫峰の風」は、年4回の発行を予定しています。学生支援の更なる充実のため、是非紫峰会基金へのご寄附にご協力ください。

紫峰の風 第2号

2016年12月発行

発行 連携・渉外室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議 久田陽介・体専3年 村上優衣・人文3年 藤本大輝・知識2年 秋本祐一郎・人文2年

渡辺千春・日日2年 塚田亮羽・医学2年 吉川健人・生物2年

広報部会 黒川正臣・生命環境1年 山岡光瑛・情報4年 米山和文・物理4年 清野晃平・生物3年

タイトルロゴデザイン 塚本真理・芸専4年

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 電話:029-853-5886 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

日本生物学オリンピック2016 本選 in 筑波大学

日本生物学オリンピックとは中高生を対象として、生物学の面白さや楽しさを体験してもらう全国規模の生物学のコンテストである。予選が7月中旬に行われ、予選参加者は3000人を超える。その予選での上位成績者80名が今回筑波大学で行われた本選への参加資格を得ることができる。

そして、日本生物学オリンピックは国際生物学オリンピックの日本代表選考を兼ねており、高校2年生以下の本選参加者の中から上位15名が代表選抜試験を受け、その中でも特に優秀な実力を示した4名が日本代表となる。また、本選参加者はいくつかの大学で特別な入試を受けることができ、筑波大学には「国際科学オリンピック特別入試」が存在する。

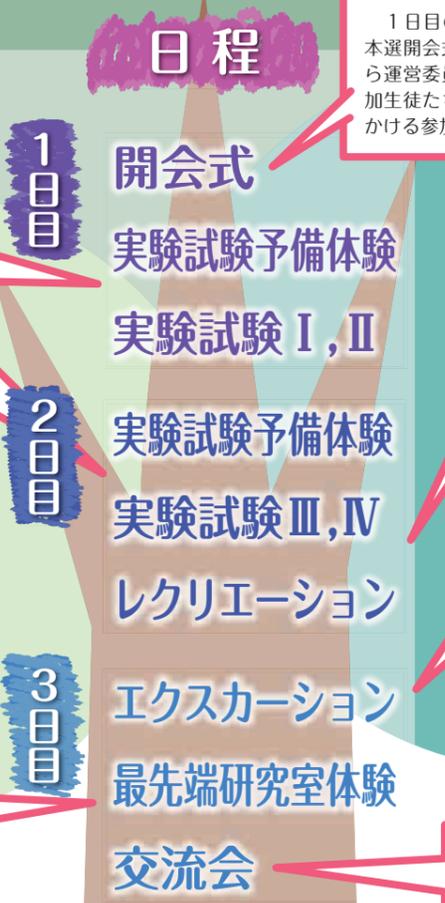
日本生物学オリンピックの本選は筑波大学と広島大学で毎年交互に行われており、来年は広島大学で行われる。本選のスタッフの多くは大学生であり、筑波大学では「SCIBO」「Team-J」と呼ばれる2つのグループがスタッフとして活動した。この2つのグループのメンバーの多くは生物学類生であり、中には自身が日本生物学オリンピックに参加した学生もいる。

この本選では4つの実験試験が行われた。また、それぞれの実験試験の前に予備体験が行われ、参加生徒はここで実験器具の基本的な操作を学んだ。
実験試験ではDNAに関する分子生物学の実験、ウニの卵や胚を顕微鏡で観察する発生生物学の実験、線虫の走性に関する実験、ミヤコグサとその突然変異体を用いた植物生理学の実験が行われた。どの実験試験も難しいものであったが、ウニの卵や胚のプレパラート作成方法が分からなかった参加生徒が多く、完璧なプレパラートを作成できたのは1人だけであった。

最先端研究室体験では参加生徒が生物学類の17の研究室に分かれ、1日から半日かけて最先端の研究を体験した。その体験の内容はマウスの細胞の培養や微細藻類の電子顕微鏡観察、植物を用いたタンパク質発現や生物界全体の系統樹作成など多岐にわたり、参加生徒は自分自身の興味のある研究室を訪れた。



菌類を顕微鏡で観察する参加生徒



1日目の9時に生物学オリンピック2016の本選開会式が行われた。開会式では生物学類長ら運営委員の先生方が話をしていた。会場は参加生徒たちの緊張感に包まれおり、この本選にける参加生徒の意気込みが伝わってきた。

レクリエーションは参加生徒と学生スタッフ、先生方が一堂に会し、バイキング形式の食事を行った。実験試験が終了した参加生徒たちは他の参加生徒との交流を深めていた。
SCIBOによる生物学クイズも行われ、レクリエーションは大いに盛り上がった。

3日目の午前中は約半数の参加者がつくばエキスポセンターでのエクスカージョンを行った。
エキスポセンター内には様々な科学体験ができるコーナーがあり、参加者が今まで経験したことのない実験に衝撃を受ける姿が見られた。



エキスポセンターの展示を見る参加生徒

交流会では参加生徒や学生スタッフの他、今年の国際生物学オリンピック日本代表選手も参加し交流した。日本代表選手は国際生物学オリンピックがどのようなものであるか、これからどのような生物学の勉強をすればよいかなどを説明していた。
台風の影響により本来予定されていた4日目の閉会式と表彰式が中止となってしまったため、この交流会で特別賞の表彰が行われた。特別賞は全部で「生理学的にelegansで賞」「ベストスケッチ賞」「セカンドスケッチ賞」の3つが用意され、副賞として線虫やウニの骨格標本などが授与された。

- ### こんな参加生徒がいました
- ・ホタルの発光メカニズム、コミュニケーションのメカニズムを研究している参加生徒
 - ・日本生物学オリンピックの本選への参加は2回目であり、数学オリンピックの日本代表候補になったことのある参加生徒
 - ・細菌が好きで、今は緑色硫黄最近にはまっている参加生徒
 - ・実験試験の前日にも関わらずテレビを見て夜更かししてしまった参加生徒
 - ・解剖目的で飼育していたカイコが可愛くなり、今ではカイコが好きな参加生徒
 - ・ハヤチネウスユキソウという岩手県早池峰山にしかない植物が好きな参加生徒
 - ・深海生物のスタイルフォルム・コルダタスが大好きで将来は深海関係の研究をしたい参加生徒

学生スタッフより

私はTeam-Jで編集長をやっていました。私自身は日本生物学オリンピックに2年前にTeam-Jとして参加した他、高校生の時に参加生徒としても参加しており、今回で3回目のオリンピックでした。
仕事内容は本選中に毎日発行する「TSUKUBA TIMES」という新聞の作成が中心でした。参加生徒へのインタビューから、写真撮影、記事作成、レイアウト作成までTeam-Jの学生スタッフで行いました。

スタッフとして参加して感じることは参加生徒の生物学への熱意です。参加生徒は生物学が好きならばばかりであり、インタビューで話を聞くとそれがとても感じられます。また、特定の分野に関しては大学生以上の知識を有している人も少なくなく、中学生にして本選に出場している人を見ると将来を期待すると同時に自分も頑張らなくてはならないと思います。
(清野晃平 生物学類3年)

芸術系サークル連合会活動紹介 ~芸サ連をもっと知りたい~



日々の活動



日々の演奏練習

焼き物をつくる会

焼き物をつくる会は40年以上の歴史を持つ陶芸サークルです。毎週火・木曜日の週2回18:30から、体芸エリアのアート&デザイン実習室2というところで活動をおこなっています。

活動ではお皿やお茶碗、コップなどの食器だけではなく、ランプシェードや箸置き、プローチ、コーヒードリッパー、置物などさまざまなものを作ることができます。アイデア次第で生活で使うさまざまなものを作ることができ、会員それぞれが楽しみながら活動しています。

陶芸では土練り、成形、焼成など多くの工程を経てやっと作品ができあがりますが、時には失敗してしまうこともあります。しかし、作品が上手にできたときはとても嬉しく、作品に愛着を持つこともできます。陶芸は難しいこともありますが、奥が深く、誰でも気軽に取り組むことができるものだと感じています。

(寄稿/焼き物をつくる会会長 島山彩果・人文3年)

JAZZ 愛好会

筑波大学 JAZZ 愛好会は、その名の通り JAZZ を愛する者の集団です。JAZZ の最大の見せ場は即興演奏。毎週金曜日に行われるジャムセッションでは、思い思いのフレーズやリズムをアドリブで演奏します。1,2か月に一度行われる学内定期ライブや、学園祭企画である「JAZZ 喫茶 FULLHOUSE」は毎回多くのお客様に足をお運びいただいています。また、結婚式場やカフェ、バーなどでの演奏依頼も承っており、学外での活動も幅広く行っています。

JAZZ は奥が深い音楽です。JAZZ 界の偉大な先人たちが残した素晴らしい演奏を聴き、少しでもそれに近づけるよう、また超えられるよう日々活動しています。どこかで私たちが演奏しているところを見かけたら、ぜひ立ち寄りみてください。敷居が高いと思われるがちな JAZZ が、少しだけ身近な音楽になるかもしれません。

(寄稿/JAZZ 愛好会会長 江橋佑奈・比文3年)



9月のジョイントコンサートの時の様子

メンネルコール

筑波大学男声合唱団メンネルコールには、およそ40年の歴史があり、一度解散を迎えた時期もありました。現在は復活して6年目であり、日々、漢たちが音楽に対するパッションをぶつけ合っています。男声合唱の世界には、学年も経験も関係なく言いたいことを言い合える自由さがあり、皆、独特の覇気を持っています。

アメリカ生まれのバーバリーショップハーモニーから、忘れられた日本の原風景を彷彿とさせる風流な日本語の曲まで、歌う曲は多様です。皆さんにとって男声合唱は身近なものではないかもしれませんが、日本各地に男声合唱団はあり、他大学との交流もあります。

先月、私たちは北海道にて、北大・首都大・九大とのジョイントコンサートを開催しました。団員は常時大募集しています。歌うことは難しいことじゃありません。音楽に興味のある方、何か新しいことを始めたい方、是非一緒に歌ってみませんか。

(寄稿/メンネルコール団長 稲葉智・資源3年)



夏合宿の練習風景

舞踏研究会

この写真は今年の8月18日から22日の5日間に渡って行われた夏合宿の練習風景の写真です。毎年、舞踏研究会では9月の初めにある夏国公立大学学生競技ダンス選手権大会(通称:夏国)という大会に向けて、8月の半ばに1年生が上級生から多くのレクチャーをもらい、集中的に練習するための合宿を開いています。この写真では1年生が上級生と組んでワルツの踊りこみの練習をしており、みんな真剣そのものです。

上に書いた夏合宿以外にも舞踏研究会では毎週月土に南駐車場近くの課外活動練習施設で練習会を開いて1年生に上級生がダンスを教えたり、それ以外の日には各自が自主練をしたりしています。さらに2月には冬のダンスパーティーを開き、地域の方々と交流したり、年2回遊び合宿でみんなで旅行に行ったりと楽しい行事もたくさんあります。ぜひ気軽に遊びに来てください。

(寄稿/舞踏研究会主将 森田敦・応理3年)

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～



2016年エース投手 石黒敦也

硬式野球部

硬式野球部は現在 111 名で活動しています。この硬式野球部には2つの大きな特徴があります。1つ目は、実際にプレーをする選手とチーム・選手を支えるスタッフに分かれて活動するという点です。ほとんどの部員が選手として入部しますが、秋季リーグ戦終了後に2年生は選手とスタッフに分かれます。選手とスタッフでそれぞれ立場は異なりますが、チームの勝利を目指して日々活動しています。2つ目は、自主練を積極的に行っている点です。同じ1部リーグに所属している他の大学に比べ練習時間が限られているため、全体練習以外の時間も各自で積極的に練習しています。今年は「勝ち続ける組織を作る」という理念のもと、「頂点」というスローガンを掲げ、日本一を目指して活動しています。

(寄稿/硬式野球部 菅雅晶・体育4年)



2015年度全日本学生柔道優勝大会

柔道部

我々筑波大学柔道部の起源は、柔道の創始者である嘉納治五郎先生が校長を務められた高等師範学校時代の1894年に求められることができ、そこから数えると100年を超える伝統を誇ります。その歴史の中で数々の選手を輩出し、世界チャンピオンとなる選手も輩出してきました。

現在の柔道部は体育専門学群をはじめ、理工学群、人文・文化学群など様々な学群・学類の部員が在籍しており、加えて留学生も在籍しております。さらには海外の大学やクラブチームも、本学柔道部で合宿を行うなどし、盛んな国際交流がおこなわれています。

また昨年度に行われた全日本学生柔道優勝大会では、国公立大学初優勝という快挙を遂げました。

これからも筑波大学柔道部へのご声援をよろしく願っています。

(寄稿/柔道部主務 宮坂千優・体育3年)



男子バスケット部 HOME GAME でのハーフタイムパフォーマンス

ダンス部

私たちは創作ダンスを主として他にも様々なジャンルのダンスを踊っています。現在 21 名で活動しており、主に8月、9月に行われる全国大会や11月、3月に行う自主公演に向けて日々練習しています。部員には大学から創作ダンスを始めた人もおり、初心者でも一緒に楽しく活動できます。

今年度は、8月に行われた第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸にて最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞しました。また9月に行われたアーティストック・ムーブメント・イン・トヤマ2016では、第1位に値する松本千代栄賞と第3位に値する審査員賞のダブル受賞を果たしました。どちらの大会も最優秀賞は2年連続受賞しており、自分たちで制作した作品がこのような素晴らしい賞をいただいた時はとても達成感があります。今後も自主公演や来年度の大会に向けて日々の創作活動に真摯に取り組んでいきたいです。

(寄稿/ダンス部主務 野村愛理・体育3年)



関東同好会リーグへ向けての練習

バレーボール同好会

私達バレーボール同好会は、「楽しくバレーをする」ことを目標に週3日球技体育館で活動しています。構成員は初心者から経験者まで様々で、皆が一緒になって楽しくプレーしています。夏と冬には合宿をしており、バレー以外でも交流があって、学年の垣根を越えて仲が良いのがバレーボール同好会の特徴です。そのため、練習の雰囲気も明るく、活気に満ち溢れています。また、ただ仲が良いだけでなく、大会前になると学年混合でチームを構成し、先輩後輩関係なくお互いにアドバイスし合うことで、技術の向上を図っています。大会は同好会リーグをはじめ、理工系リーグ、フォレックスリーグなどにも参加しています。秋の同好会リーグで3年生は引退となるので、本戦に出場できるよう頑張ります。

(寄稿/バレーボール同好会主務 松山享平・物理3年)



競技風景

医学サッカー部

私達医学サッカー部は、週3回の練習と試合を主に外部の施設で行っています。蹴球部、サッカー同好会と切磋琢磨することによって、より高いレベルでプレーできるように日々練習に取り組んでいます。毎回試合の後はミーティングを行い、試合のビデオを視聴します。そして自分たちの問題点、良かった点を挙げることで試合の反省を行い、自分たちのサッカーのレベルを上げられるよう努力しています。主要な大会は、医歯薬獣春季サッカーリーグ大会、東日本医学生サッカーリーグ大会、東日本国公立医学生サッカー大会の三つであり、「頂戦」をテーマに部員一人一人が頂点を目指し、挑戦者の気持ちを持ってサッカーに取り組んでいます。

(寄稿/医学サッカー部主務 藤井悠・医学3年)



試合の様子

医学陸上部

医学陸上競技部は、年に3度の医学群生の大会での総合優勝を目標として活動しています。普段の練習は一般学生団体である陸上同好会と一緒に活動しています。練習内容は、アップとして軽いジョギングをした後、各自で体操・ストレッチ・ドリルを行います。その後短距離・中距離・長距離・フィールドの各ブロックに分かれ、ブロック長の作成したメニューをもとに本練習をし、弱点克服のため補強を行います。雨の日は、ウェイトルーム・雨天走路などを利用した筋力トレーニングが主になります。

部員は、陸上経験者から、大学に入って陸上を始めた人まで実力は様々ですが、皆が和気藹々と練習しています。練習以外でも様々な企画があり、皆で仲良く楽しく過ごしています。

(寄稿/医学陸上部主務 三枝直幹・医学3年)

第24回全国大学女子サッカーつくばフェスティバル

Q. 全国大学女子サッカーつくばフェスティバルとは？

競技レベルに関係なく、全国の大学女子サッカープレイヤーがつくばの地に一堂に会する大会です。毎年異なる大きなテーマを掲げながら受け継がれ、ついに今年で24回目を迎えました。

Q. 大会の特徴

全日本大学女子サッカー連盟主催のもと、筑波大学女子サッカー部の学生によって準備・運営され、大手企業や大学周辺の店など企業や地域を巻き込んだ大会となっています。参加人数は約300人を超え、大規模であると言えます。



試合も真剣勝負！

Q. 運営についての苦労は？

部の3年生中心に進められるのですが、今年は部員自体が少なく、一人一人の仕事が多くなってしまいました。ミーティングでも決めることがなかなか決まらず、時計の針が12時を超えることも... さらにリーグの組み合わせやグラウンドの調整、大学周辺店への協賛の依頼まわり、各方面との連絡など思い返すといるありましたね。ただこれだけ大きな規模の大会を運営することは、筑波大学女子サッカー部員にしか味わうことのできない貴重な経験だと強く感じました。



サッカー教室後に1枚！

Q. 今年の大会のテーマ

「創」
参加者全員が成長できる、出会う、繋がる大会を創り上げ、そしてこれからの女子サッカー界を創り上げていくという想いを込めて決めました。サッカーの試合をするだけでなく、審判やサッカー教室なども皆で行い、大会を通して交流を深め、繋がりを創り上げるとともに、個人およびチームの成長の一旦としていたしたいと思います。

Q. 実際の内容とは？

サッカーの試合は、人数が少ないあるいは初心者の多いチームのために、8人制で行うチャレンジリーグも作り、11人制で行う一般リーグとの2リーグ体制で行いました。試合の間には、交流イベントやゲームを行ったり、つくば市内の小学校に声をかけ、地域の女の子を呼んでサッカー教室を開いたりしました。また審判の行い方について実践的に学ぶために、試合の審判をお願いしていたサッカー協会の公式審判の方々による審判講習会を開きました。それから、他チームの監督の方で元なでこ代表選手の方がいらっしまったので、その方をお願いして初心者講習会を開きました。



運営をやり遂げた女子サッカー部のみんな

Q. 大会を経た自分達の変化は？

まず自分たちの所属する筑波大学女子サッカー部に対して、誇りが持てるようになりました。また自分達の参加する大会においても、運営して下さる方々への感謝の気持ちを忘れることなくプレーできていると思います。チーム内では、学年を超えて協力し合うことができるようになり、また良くも悪くも仲間の良い面・悪い面に気付くことができ、より関係が深まったと思います。誰かのためにという想いも持てるようになりました。そしてなによりも「サッカーでの繋がり」が、全国にできたことが大きな収穫であったと思います。

Q. 来年のフェス、今後の活動に関して

人数が少なく大変ですが、楽しみにしてくれている人たちがいるのでその期待に応えていきたいです。またこの大会がこれからもずっと続いてほしいと思っています。そして私たちとしても、今後も積極的に女子サッカー界を盛り上げていきたい、盛り上げていかなくてはならないと思っています。日々の活動に関しても、感謝の気持ちを忘れず自分たちの目標へと進んでいきたいと思っています。



運営をやり遂げた女子サッカー部のみんな

インタビュー協力... つくばフェスティバル実行委員長：福田有紗
同実行委員：白井蒼、肥尾明里
執筆... 第40代体育会執行委員会広報局長 久田陽介

前夜祭

ダブルダッチのパフォーマンス

鏡開き

松美記念

芸術祭の焼き物の展示

芸術祭のモニュメント

からあげの模擬店

本祭

経音バンドのステージ

TSUKUBA COLLECTIONの結果発表

後夜祭

アカベラサークルによるパフォーマンス

後夜祭花火

複数団体によるコラボレーションパフォーマンス

たくさんのお来場者

漫画研究会の展示

ライブイベント中

無絃鼓スーパーライブ

リオオリンピックのメダル展示

能楽「土蜘蛛」

援助金の目録贈呈

ツクバインショーの一幕

ときめき太鼓 学園祭ステージ

筑波寄席

洋画の展示

ツクラライブ!

後夜祭花火

試合の合間にみんなで交流

文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～

E.S.S.

筑波大学 E.S.S. (English Speaking Society) は、英語でのディベートやスピーチ活動を通じて、論理的思考力や英語力の向上を目指しています。現在は約 40 名の部員が所属しており、それぞれのセクションに分かれて活動しています。ディベートは NAFA (全日本英語討論協会) から指定された論題に基づき、肯定側・否定側に分かれ、いかに第三者を論理的に説得できるかを競うものです。2016 年度後期シーズンは「日本は環太平洋経済連携協定から撤退すべきである。」という論題で、全国の大会に出場しています。今年度は5月に開催の「Japan National Debate Tournament」で個人と団体の両方が優勝し、10月の「NAFA Kyushu Tournament」で3年生のペアが優勝を果たしました。一方スピーチは各自が書きたいテーマに基づき 800 語程度の英文にまとめ発表する競技です。メッセージを伝えたいという強い想いをもちつつ、いかに客観的で説得力のある文章を整理できるかがポイントです。全国規模の大会は 10～12 名程しか出場できないという狭き門ではありますが、現在の後期シーズンでは数名の上級生が予選を通過しています。また大会当日にトピックを与えられスピーチを披露する即興スピーチの全国大会では2月に2年生が優勝を果たしました。このようにセクションにより活動内容は違うものの、同じサークルの構成員として常に互いを刺激し合い、活躍をたたえ合って良いチームワークを築いています。今後も部員一同練習に励み、頑張りたいと思います。

(寄稿/E.S.S.代表 北栄麻弥・国際3年)



列車内から外の風景を撮影する会員

筑波大鉄研「旅と鉄道の会」

筑波大鉄研「旅と鉄道の会」は、名前の通り旅行と鉄道のサークルです。構成員は、学群から院生まで幅広いです。基本的な活動は、年に数回の旅行(日帰りで関東周辺を回ることが多い)と、つくば市内等を走るバス路線やTX・常磐線などの時刻表を掲載した「つくば時刻表」の発行、有志の研究班による鉄道やバスの研究誌発行です。毎年11月にある雙峰祭では、鉄道模型のジオラマや写真の展示等を行っています。

日常的な活動としては、毎週火曜日の放課後のミーティングが挙げられます。主に旅行の行先を決めたり、雙峰祭の時期にはそれに関連する事項について話し合ったりします。ミーティング後には食事に行くなど、仲の良いサークルです。

(寄稿/筑波大鉄研「旅と鉄道の会」会長 千葉裕平・社会3年)

文芸部

筑波大学文芸部には1年生から院生まで毎年30人前後が在籍しています。「肩肘を張らずに文章を楽しむ」がモットーで、主な活動は読書会の開催と部誌『樹林』の発行です。読書会は週に1回木曜日の18時30分から21時に開催され、そこで持ち寄った作品をお互いに批評しています。部員の書く作品は小説、詩、短歌、さらにはエッセイなど多岐にわたります。他には、「お題作文」というものを行っています。これは、脈絡のない単語を3つお題として選定し、それらを利用した作品を書くといった取り組みです。部誌『樹林』は年に5回(2月、4月(新歓号)、7月、11月(学祭号)、12月)発行し、筑波大学学園祭(雙峰祭)で無料配布しています。2015年の雙峰祭では用意していた11月号がすべてなくなる大盛況となり、多くのご好評をいただきました。夏休みには、例年9月に懇親旅行に出かけています。2016年の夏旅行には13名の部員が参加し、伊香保・渋川温泉へ訪れました。生憎天気には恵まれませんでした。部員にとっては楽しい思い出の1つとなりました。11月の雙峰祭では部誌の無料配布に加え、「文芸部古本市」を開催しています。この古本市では文芸部の現部員や先輩方から寄付された古本を販売しています。また、年によっては葉やブックカバー、部員の作った個人誌等を販売することもあります。今年は学群3、4年生と院生の部員が各自で個人誌を作成し、販売しました。

(寄稿/文芸部副部長 土屋深優・知識3年)



交信中

アマチュア無線クラブ

我がクラブでは、かつて趣味の王様と呼ばれたアマチュア無線を主体として活動を行っています。様々な周波数帯で、筑波大学の開けた立地を活かし、日本だけでなく、世界全体と交信しています。第3エリアA棟の屋上にある大きなテレビアンテナのようなものを見たことがあるでしょうか? あのアンテナは当クラブの設備の1つです。普段の活動として、これらの設備のメンテナンスや、定期的なミーティングをしています。これらに加え、「できるだけ遠く、多くの局と交信する」ことを目的とした大会、コンテストにも出場しています。学群生から社会人大学院生まで、広い層のメンバーが仲良く楽しんでいるクラブです!

(寄稿/アマチュア無線クラブ部長 影山勇太・情報3年)

旅行系サークル特集

文化系サークル連合会には多種多様なサークルが加盟している。今回はその中でも、旅行をサークル活動の中心に据えている団体について特集することにした。この旅行系サークルに該当するのは、「筑波大鉄研「旅と鉄道の会」(以下「旅鉄」と表記)、「歴史探訪会」(以下「歴探」と表記)、「山岳旅の会」(以下「山旅」と表記)の3団体である。同じ旅行系サークルだが、活動内容にはそれぞれどんな特色があるのだろうか。この問いに基づき、各団体の会員に以下のような質問を試みた。

質問1:どのような旅行をしているのか、詳しく教えてください。

旅鉄「泊まりの旅行が年に1回ありますが、手軽に行ける日帰り旅行が大半です。普通に観光地を巡ったり、列車を見つけたら撮影をしたりもします。また、鉄道路線を中心とした旅行をすることもあります。例えば過去には、東京の路線巡りをした回がありました。」

歴探「基本は月に1回、日帰りで行ける歴史観光地を巡ります。夏と春には1回ずつ、遠出して2泊ほどの旅行をします。旅行先では史跡を訪れたり、博物館の歴史的な資料に目を通したりします。特に歴史好きな人には楽しめる内容だと思います。」

山旅「月に1回くらい、関東近辺の山へ出かけています。これらは主に日帰りか、1泊程度の旅行です。また夏合宿では、1週間かけて日本アルプスを登るなど、比較的大規模な登山に挑戦しています。その際はテントに泊まり、自炊もします。冬には登山ができないので、代わりにサイクリングを楽しんでいます。」

質問2:普段のミーティングでは何をしていますか。

旅鉄「学園祭などのイベントについて話し合ったり、旅行の計画をたてたりします。」

歴探「次の旅行先を決めています。」

山旅「旅行に関する話し合いをします。具体的にはまず1人が提案して、賛同者を募ります。その後しっかり計画を練って、これが会員たちの承認を得られれば、実際にそこへ旅行することができます。」

質問3:学園祭などのイベントでは何をしていますか。

旅鉄「学園祭では、プラレールや鉄道模型、写真の展示を行います。また、トレインシュミレーターでお客さんに運転体験を楽しんでもらう企画もしています。他には、有志で鉄道の研究誌を作って販売したり、会員皆でつくば時刻表を作ったりします。」

歴探「これまでの旅行の記録を展示するほか、もっふるという、餅で作ったデザートを販売しています。」

山旅「白玉ぜんざいや飲み物などの食品販売を行っています。」

以上の質問への回答から、3団体の類似点や相違点がどこどこ見受けられる。どの団体も普段は日帰り旅行をして、年に1、2泊りがけの旅行をしているようだ。しかし旅行の内容自体はかなり異なっていることがわかる。また、しっかりと旅行計画の手段が決められている団体や、学園祭で多くの展示や企画、販売に取り組む団体もある。このように、旅行の内容だけでなく、その他の活動においても団体ごとの特色が表れている。今回の記事を読んで、それぞれの旅行系サークルに興味を持っていたければ幸いである。

(取材/文サ連広報局長 村上優衣・人文3年)

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ～全代会をもっと知りたい～



2015年度クラス代表者懇談会の様子

今年度のクラス代表者会議議長懇親会について

各学類のクラス代表者会議の議長たちが集まるのが、全代会主催のクラ代懇親会だ。昨年度の懇親会では必修科目「英語」に関して話し合った。「英語」はそれまでも科目名と内容、クラスと授業レベルの不一致等が問題とされていた。昨年度話し合った内容は、その後全代会の教育環境委員会を通して大学側へと伝えられた。今年度も昨年度に引き続きクラ代議長懇親会を行い、「各クラス代表者会議の組織構成等について」を話し合っ貰う予定だ。これはクラ代議長側も求めていることで、各クラ代会での成功や失敗に関して情報共有を行うことは、他のクラ代会の活発化に繋がるだろう。更には、今まで隠れていた全学的な問題が浮き彫りになるかもしれない。

(寄稿/全代会議長 鈴見祐悟・物理2年)



7月13日の第2回意見聴取会の様子

スポーツ・デーについての話し合い

今年度、いくつかの学類のクラス代表者会議から「スポーツ・デー学生委員会選出人数」に関して多すぎるのではないかと見直して欲しい、という意見が全代会に提出された。そのため学内行事委員会は7月13日の第2回意見聴取会会議にて『「スポーツ・デー学生委員会要綱」改正の要望』に関して意見を集めた。この会議では意見がまとまらなかったため7月20日翌週の会議でも引き続き話し合いを行った。いずれの会議にもスポーツ・デー側の学生を呼び現状等を説明していただいた。2回の会議の内容を踏まえ、今後も学内行事委員会とスポーツ・デー学生委員会と話し合いを重ねる予定である。筑波大学の中でも重要な行事であるスポーツ・デーが今後、より良い形へと変わっていきけるよう尽力していく所存である。

(寄稿/学内行事委員会委員長 福田哲郎・比文2年)